

## C F T ニュース & 息抜き (11月)

全日本コーヒー公正取引協議会（コーヒー公取協）に寄せられた問い合わせなどを、トピック形式で毎月リリースします。参考になれば幸いです。

### 1. 2024年10月の気になる問合せ

- (1) 輸出用ドリップバッグコーヒーの注文を受けた。注文主はコーヒー公正競争規約に縛られない表示を希望している。相手は炭焼ドリップバッグコーヒーを製造して欲しいとのことだが、炭焼き100%でないものであり、当社は公正競争規約に従った表示をしている関係から断ったが、相手は海外だから問題ない、として諦めない。どうすればよいか。

⇒ 非会員社の注文でコーヒー公正競争規約に縛られない表示を希望とのこと、悩ましいですね。

輸出用のコーヒーであれば、輸出者は輸出先国の食品表示に従った表示を求められるので、輸出先国の表示を御社に示す必要があります。韓国、台湾及び中国の食品表示は Codex 基準に近く、日本より詳細な表示が求められると思います。

炭焼ドリップバッグコーヒーと強調した表示であれば100%炭火焼か、又は何%が炭火焼か求められる可能性が高いでしょう。EU では、レトルトパックご飯の表示に水80%、米20%と記載されています。国によっては日本より詳細な表示が求められます。残念ながら、我が国の食品表示は後発国タイプになりつつあります。

コーヒー公取協には輸出用に製造したレギュラーコーヒーについて、キャンセルになったので国内向けに販売したいとの問い合わせが時々あります。その時には、英語使用圏向けであれば英字表記を日本語表示にするほか、食品表示基準に従った表示にし、かつコーヒー公取協会員であれば規約の遵守もお願いしています。

(2) ○○県くらし安全・安心課である。管内のコーヒー事業者でコーヒー公取協の非会員社と思うが幾つか確認させて欲しい。

- ① コーヒー生豆は日本への輸送中にカビが生えやすいものか。また、焙煎したコーヒーからカビが生じることはあるか。
- ② 無農薬や有機コーヒーと称する製品は多いか。

⇒ ①について

通常、コーヒー生豆は麻袋に入れられコンテナに積まれ日本に輸入されます。アフラトキシンなどのカビが輸送中に生じたという例は殆ど聞きません。コーヒー生豆の水分は12%程度であり水濡れが生じない限りカビは生えないと考えます。輸入食品検疫でもコーヒー生豆のアフラトキシン汚染は聞きません。

コーヒー豆の焙煎は200度程度の高温で処理されるので、焙煎後にカビが生じることは通常考えられません。

②について

無農薬コーヒーとして販売する製品はあると思いますが、コーヒー公取協は無農薬表示は行わないよう求めています。有機栽培コーヒーでも使用が認められる農薬があり、無農薬とするのは適切でないと考えているからです。

有機コーヒーは時々見ます。コーヒー生豆の栽培地からコーヒー焙煎・加工施設などまで JAS 認証を受けたものを前提として考えています。当会会員の有機コーヒーは JAS 認証を受けマークも付しています。

## 2. コーヒーを巡るいろんな状況

コーヒー消費に影響する衆議院選があった。この選挙だけでなく公職選挙法に基づく選挙では、候補者は客にコーヒーを提供すると選挙違反に問われる可能性がある。緑茶に饅頭を添えて出しても選挙違反にならないようだが、コーヒーの提供はアウトである。ただ、判断するのは取締り当局であるからCFT子ではどのようなことが具体的に選挙違反になるのかわからない。昔、総務省選挙課に聞いたが、判断するのは警察であり総務省でも具体的なことは言えないとのことであった。

公職選挙法は1950(昭和25)年の施行であるから施行時はコーヒーは贅沢な飲物とされていたのであろう。コーヒーは1989年に消費税法の施行により物品税対象でなくなったが、それまでは贅沢品範疇にあった。コーヒ

一は今や飲料の中では最もポピュラーな飲物だが公職選挙法では依然として贅沢品扱いである。

秋、CFT子には美術の秋である。サントリー美術館では「英一蝶没後300年記念 風流才子、浮き世を写す」と題した美術展があった。一蝶は幕府から生類憐みの令違反で三宅島に10年余流されていたが、犬公方吉宗の死とともに許され江戸にもどった数奇な絵描きである。本当の罪は旗本などの金銭的余裕のあるエスタブリッシュメントを言葉巧みに吉原などに連れ込むのを防止するためだったのではないか。

実は、板橋区美術館が2009年9月に開館30年記念として「御赦免300年記念 英一蝶」展を開催している。CFT子は両展のチケットの半券（両展とも）を持っているが両方とも絵は「布晒舞図」である。確かにいい絵である。

美術展の入場券の簡素化というかコスト削減の流れかは知らないが、無味乾燥な入場券が増えているように感じる。東博の特別展「はにわ展」（10月）の入場券は高村光雲の老猿、東京都美術館の田中一村展「奄美の光 魂の絵画」の入場券は領収書のQRコードである。結局図録の購入はサントリー美術館の「英一蝶展」のみとなった。入場券と図録に何の関係もないが、観者としては図録に挟む入場券にこだわりがある。

全日本コーヒー公正取引協議会は恒例の研修会を2025年3月4日（火）に東京、6日（木）に名古屋、7日（金）に大阪で開催する。東京会場では消費者庁に食品表示基準の見直しについて講演していただく予定である。先日、消費者庁にお願いに行ったが、途中の道に銀杏の実が足の踏み場もないほど落下しており、気を付けていても踏んでしまう。CFT子が霞が関で働き始めたころは、日比谷公園の銀杏を含め、銀杏の実を集める人が朝早くから集まり、踏みつけるようなことはなかった。つくづく日本人は豊かになったのだと思う秋である。

（11月7日記）